

すべての教科でN I Eを！

指定校2年次 根羽村立根羽中学校 柳澤 知奈

昨年度の成果→主に社会科で有用性を実感。全校の朝活動「新聞タイム」で読む力を伸ばした。
今年度の課題→全教科で、授業以外でもN I Eを実践。「新聞タイム」を工夫して他の力も伸ばす。
また、ニュースへの関心が非常に薄い3年生に、主権者としての自覚を持たせる。

I すべての教科でN I Eを！

授業時間内のさまざまな場面でN I Eを実践していただいた。全職員にアンケートをとって見たところ、以下のような実践事例を紹介してもらった。

教科等	学年・単元・場面等	実践内容
数学	○3学年 「標本調査」	○「新聞の特徴を知るために、標本調査を行おう」 →実践授業その3で後述。
理科	○1学年 「プラスチックの性質」 ○2学年 「天気」	○導入で、海洋プラスチックごみ問題の記事を読み「なぜプラスチックが問題になるのだろう」と問いかけて考え、「無くなるから？」「水に浮くから？」と予想を立てた。 ○天気の記事を学んだあと、実際に新聞の天気図を見てみると、記号だけでなく等圧線・高/低気圧が載っていることに気づき、その意味を学んだ。「やっと天気図の意味が分かる」と感想が出た。また、冬の天気の授業で、「木枯らしが吹かなかった」という記事の中から「西高東低の気圧配置」という文言に着目し、なぜこの気圧配置から冬の気候の特色が生じるのかを考える授業を行った。
社会	○1学年 「ヨーロッパ州」 ○1学年 「アフリカ州」 「北アメリカ州」 ○2学年 「日本の領域」 ○3学年 「国会のしくみ」 ○3学年 公民的分野の全般	○信濃毎日新聞（2016.6.25） 「EU加盟にはメリットがあるのに、なぜイギリスは離脱するのか？」について、記事を使って調査。 ○カカオ農園の児童労働やアメリカへ向かうキャラバンなど、授業に関係する記事を紹介。 ○排他的経済水域をめぐる、中国や北朝鮮との対立に関する記事や、北方領土をめぐるプーチン露大統領の発言などの記事を紹介。 ○通常国会におけるIR関連法案の審議に関する記事を集め、日付順に並べて読む中で、法案が国会内でどう審議され、成立に至るのかの流れを調査した。 ○「財政」→実践授業その1で後述。 「政治」→実践授業その2で後述。
家庭	○2学年 「家族・家庭との関わり方」「中学生の自立」	○信濃毎日新聞 毎週日曜日の連載 「イライラしないちょっとしたヒント」 全員で記事を探して読み、さまざまなヒントを得た。
総合	○2学年 「地域貢献の仕方を考える」	○信濃毎日新聞の地域面に載っていた、中学生が行った地域貢献活動についての記事を全員で読み、自分たちの活動を考えるきっかけとした。
防災	○3学年 「災害への備え」 ○全校 「災害に備える」	○西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震などの記事を集め、そこから「どう備えるか」や「避難生活での心がけ」を読み取り、まとめた。 ○中日新聞サンデー版（2018.9.9） 「災害に備える」を、避難訓練後に掲示板へ張り出し、全校に見てもらえるようにした。
道徳	○1・3学年 「自然愛護」 （3年でやってよかったので1年にも紹介。）	○読売新聞 ニュース de 道徳（2018.9.12） 「プラごみ減 ストローから」 記事についていた授業案の通りに実施してみた。記事が非常に端的で読みやすく、WEBに資料があったのもよかった。
キャリア	○3学年	○将来の夢が決まっている人には、同じジャンルで働く人の特集やインタビュー記事を渡し、夢が決まっていない人にはそういう内容の人生相談の記事や興味がわきそうなジャンルで働く人の記事を個別に渡した。
人権	○3学年 「元徴用工訴訟」人権侵害への保障を考える	○信毎・中日・朝日・毎日・日経・読売（2018.10.31）の社説を読み比べ、自分の考えと各紙の主張を比較・関連させて「日韓はこれからどうすべきか？」を軸に話し合った。

	○3学年 「女性差別」	○中日新聞サンデー版(2018.10.21) 「女性に押しつけ 無償労働の格差」を全員で読み、性別にかかわらず力を発揮できる社会にするためには？を考えた。
短学 活	○2学年 「LGBT の人権」	○人権の授業でLGBT について取り上げたため、関連する記事が載っていた時に短学活で紹介した。
校長 講話	○全学年 「障害者の人権」	○毎日新聞(2016.8.18) 「吃音 差別を受けた 6割」の記事を用いて、生徒が出会ったことのない障害について紹介し、周りの理解の大切さを伝えた。

残念ながら全教科とはいかなかったが、多くの場面で新聞を扱ってもらったことで、新聞が生徒にとって身近なものになった。また、授業内で扱えなくても、授業に関係しそうな記事を職員が集めたり、職員間で話題にしたり提供したりしたことで、職員の肥やしになったものは多かったと思う。中でも道徳は、来年度から教科化されることもあり事の重大性は自覚しているものの、どう授業を作っていったらよいか悩む状況に対して、新聞の道徳特集は非常に助かった。そのような面でも、多くの先生(特に若い先生)にNIEの有用性を実感してもらえたことが大きな収穫だった。

II 授業外でもありったけやってみた！

1 新聞コーナーで

	6月まで	7月から
取り 組 んだ こ と	・授業に関わるところに職員が付箋を貼る ・見てほしいところにポップをつける ・話題になりそうな記事を開いておく ・目を引きそうな写真を開いておく	・6月までやってきたことも継続 ・生徒の暇そうな時間に、目の前で読む ・読みながら大きめに独り言をつぶやく ・反応を示した生徒を捕まえて、記事について2、3言葉を交わす
生徒 の 反 応	・基本的にスルー ・興味があるものは見ている(スポーツ等) ・記事についての会話は特になし	・かまってほしい生徒が寄ってくる ・一度話した生徒は続報の話をしに来る ・盛り上がっていると話の輪が広がる

→生徒が読むのを待つよりも、一緒に読んで会話をするのが効果的だとわかった。特に登校してからしばらくの朝の暇な時間(部活が無い人たち)や、歯磨きをしている時間が狙い目。

2 出前講座

7月4日に信濃毎日新聞社の山崎さんにご来校いただき、「新聞を開こう」ということで全校に授業をしていただいた。見出しやリード文を読めば記事の要約になっていて内容が簡単に把握できること、一日の新聞には200もの記事が載っていることなど、たくさんのことを教えていただいた。特に、新聞には「知りたかったこと」と「知らなかったこと」が載っていることを教えていただいたことで、新聞は自分の世界を広げてくれるものだという認識を持てたようだ。

授業後、新聞コーナーで新聞をめくる生徒の姿がじわじわと増えてきている。特に、この時間に読んだ「タイ洞窟 遭難事件」は、初めてこの事件を知った生徒も続報が気になるようで、休み時間に新聞をめくったり話題にしたりする姿が多く見られた。

3 全校新聞タイムの継続

	昨年度まで	今年度4～12月
取り 組 んだ こ と	・全校の朝活動で週一実施 ・担当職員が選んだ記事を読む ・気になったところに線を引く ・感想を書く ・わからない語を辞書で調べてメモ ・見出しを伏せておき、自分で書く	・昨年度と同じことを継続 ・5回に一回程度、一人一日分を新聞コーナーから持ってきて自由に読む ・気になった記事を一つ選び感想を書く ・記入したプリントを廊下に掲示
生徒 の 反 応	・読むスピードを意識するようになった ・辞書を自然に引くようになった ・知らなかった話題に触れて楽しんでいる	・誰がどんな記事に興味を持っているか何を考えているかがわかって楽しい ・1年生が意外と社会派だと判明

1～3月はさらに内容を変えて行った。

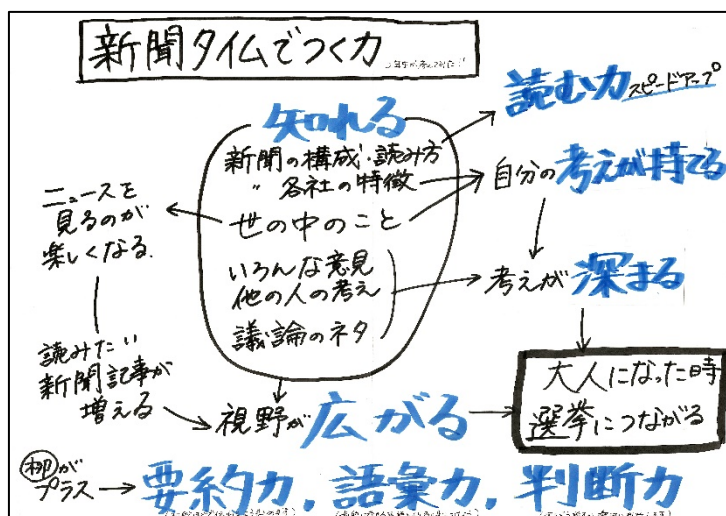
	1 年生	2・3 年生
取 組 ん だ こ と	・信濃毎日新聞「斜面」の書き取り。 ・いただいた読み書きノートを使用。 ・朝活動10分×2回で、一日分の書き取りをするようにした。 ・2回目で書き取りが終わったら、辞書を引いたり、感想を書いたりする。	・2、3年生と職員で3人グループ。 ・一人一日分ずつ新聞コーナーから持参。 ・一面から見出しに目を通す。(1分) ・気になった記事を読む。(2分) ・記事の要約をグループで発表。(一人1分) ・発表へ他の2人が意見を言う。(1分) ↑ここを3人分繰り返す。
生 徒 の 反 応	・回を重ねるごとに書く速さが増した。 ・授業でノートを取るスピードが上がった。正確さも増した。	・自分の考えをまとめて話す力が伸びた。 ・異年齢と話すことで物事を多面的にとらえ、自分の考えを深めることができた。 ・有用性を生徒自身が語ってくれた。

- ・この他にも、新聞タイムの時間を使って職員が10分授業（全国紙と地方紙の違いについて）を行ったり、生徒が選んだ記事を全校で読む時間にしたり、学習シートのような形式で問いに答えながら読んだり、さまざまな新聞タイムを行ってみた。

4 社会科で新聞タイムをつくる

	昨年度まで	今年度から
取 組 ん だ こ と	・3年、公民の授業でのみ。 ・職員が選んだ記事を読む。 ・記事は公民の授業に関わる内容のみ。 ・3分間で、読むだけ。 ・質問があれば解説する。	・2、3年の社会の授業で。 ・一人一日分ずつ持ってくる。 ・一面から見出しに目を通す。(1分) ・気になった記事を読む。(2分) ・ペアで記事について話す。(1分×2) ・という5分の活動。 ・質問があれば解説する。
生 徒 の 反 応	・公民の授業と現実社会のつながりを実感した。 ・教科書に載っていない現状を知ることができた。	・公民はもちろん、地理の授業と現実社会のつながりを実感した。 ・2年生は先を争って新聞を持ってくる。 ・株の質問をされたので解説をしたら、毎日株式欄をチェックする2年生が現れた。 ・自分の興味以外の記事にも触れられて、発見を楽しんでいる。

2年生のつぶやき「すごい、世界、大変…。今が特別大変なのか、今までも大変だったけど、新聞読んでこなかったから知らなかっただけなのかな…。」



この発言の通り、生徒たちは今までより広い視野を持つことができるようになった。また、自分の気になる記事を読むことで、もっと知りたい、面白いと感じる生徒が増えた。

これを続けて半年たった1月下旬、←2年生に「新聞タイムをやっていくと、どんな力がつくと思う？」と問いかけたら、さまざまな発言があったので柳澤がまとめて掲示した。3年生にも見せたところ「確かに！」と納得していた。特に、←「大人になった時、選挙につながる」という発言が出たのには驚いた。数年後には主権者になる自覚を持ち、必要性を持って新聞を読むようになったと考えられる。

ペアで話をするというやり方は、最初は2年生で行っていたのを、3年生でも行うようになり、次第に2年生が「1分×2だと短すぎて話し合えない！」と言うので、2・3年合同の新聞タイムへと発展させていった。たった5分、されど5分。継続したことで、さまざまな生徒の変化が見られた時間だった。

5 生徒会活動でNIE

生徒会本部が例年行うユニセフ募金の活動に、今年はユニセフから「ロヒンギャ難民へ緊急支援を」という要請があった。本部の生徒に話したところ「まずはロヒンギャが何か、自分たちが知り、みんなにもわかってもらおう」ということになった。新聞のストック（今年度7か月分）からロヒンギャの記事を集め、読み、全校に伝えたいロヒンギャの現状を抽出してポスターにまとめた。ポスターに入れられなかった記事でも全校に読んでほしい記事は新聞タイムで扱うなど、さまざまな形でロヒンギャの惨状を全校に理解してもらったうえで募金をしてもらった。

ロヒンギャの記事を読んだ生徒は、さまざまな感想をつぶやいていた。「ひどい」「信じられない」「こんなことあるの?」「なんで?」など。特に日本で生活していると感じにくい宗教対立の理不尽さや悲惨さを目の当たりにしたことで、多様性を認め合うことの重要性を改めて認識した生徒が多かった。

本部の生徒はロヒンギャの過酷な状況をたくさんの記事から知り、時に涙を浮かべながら活動していた。その思いから、「校内だけでなく村民にも協力を呼び掛けよう!」と活動が広がった。村内の商店に募金箱の設置をお願いしたり、役場をお願いして生徒会長の声で録音した広報を流してもらったり、チラシを作って村内の回覧板で回してもらったりと活動している。

結果、67,238円という多額の寄付が集まった。全校生徒数15名の学校としては異例の金額だ。例年行っている活動が、新聞によって生徒の心を動かされた結果、深みのある活動に変わったと考えられる。来年度の生徒会本部でも、この成果を引き継げるよう支援したい。

Ⅲ 実践授業

1 実践授業 その1 7月・3学年社会（公民的分野）

(1) 単元名 「どうしたらいい? 日本の財政」

(2) 本時の位置 全8時間中 第7時

(3) 本時案

主 眼 租税の意義や財政の役割、国・地方公共団体の役割について学んだ生徒たちが、国債をこれ以上増やさないためにどうしたらいいかを考える場面で、新聞記事を読んだり対話したりすることを通して、多様な考え方をふまえた自分の立場を決めることができる。

過程	学習活動	予想される生徒の反応	指導 評価	時	資料等
導入	0 新聞タイム	- 言葉が難しいから調べよう。 - こういう方法もあるのかあ。	0 いつも通り、記事を配布して黙読。	5	記事の北°
	学習問題：国債をこれ以上増やさないためにはどうしたらいいだろう？			5	構成シート①②
	1 前時を振り返る。	- 自分の考えを書いたね。 - 根拠を挙げるのが難しかった。 - この判断でいいのか迷う…。 - 他の人はどう書いたのだろう？	1 構成シートを返却し、自分の考えや前時の様子を振り返らせる。		
展開	学習課題：いろいろな意見を見聞きした上で自分の立場を決めよう。				
	2 考えが近い人と意見を交換する。	- 歳出の削減が必要。米朝会談もあったし防衛費は減らしていい。 - 北欧のように消費税をもっと上げて平等にしたらいいと思う。 - 直接税を増やせば、消費増税のような生活へのダメージが少なくていいと思う。	2 床でも机でもかまわないので、意見交換がしやすい状態で行うよう指示。	15	- タイマー - グループ分けA表示
	3 違う考えの人の意見を聞く。	- 米朝会談後、進展があったと思えないから、万が一に備えておくのは必要な。 - 増税した分、ちゃんと北欧並みの社会保障をしてほしいね。 - 所得/法人税を増税すると勤労意欲が下がるから、景気対策が欠かせないね。	3 意見の違う人を論破するのではなく、さまざまな意見を聞くように指示。 多様な意見をふまえて自分の立場を決めている。	15	グループ分けB表示
まとめ	4 ふりかえりシートを書く。	- 同じ意見の人がいてほっとした。 - 反論された部分を考え直そう。	4 時間に余裕があれば考えたことを発表してもらおう。	10	

(4) 実際の授業で ※生徒の発言の下線部はいずれも、前時までに読んだ新聞記事に基づく発言。

○同じ考えの生徒がおらず、ペアが組めなかった。

→展開2・3を変更。授業を見に来てくださった信濃教育会の小松先生にお願いして生徒の中に加わっていただき、一対一で共感したり質問したりする時間を10分×3回実施。

①1回目、2回目、3回目と進むうちに、それまでの相手からの質問に答えたことが生きていて、回を重ねるごとにそれらを生かして説明できていた。

(例) Nさんの場合

1回目 Nさん「間接税を増税するより、直接税を上げた方がいいと思うんだよね。」
Mくん「直接税にもいろいろあるけど、何を上げるの？」
Nさん「・・・・・・うーん。そっか、いろいろあるね。」
2回目 Nさん「間接税を上げると低所得者の負担が大きくなるから、直接税を上げた方がいいと思うんです。特に所得税。」
先生「所得税を上げてしまうと、働いても税でとられてしまって、働く意欲が落ちるのでは？」
Nさん「・・・・・・たしかに。そうですね。うーん。」
3回目 Nさん「間接税を上げると低所得者の負担が大きくなるから、直接税、特に所得税を上げた方がいいと思うんだよね。で、働く意欲が低下しないように、日欧のEPAなども利用して、日本ならではのものをどんどん輸出して、企業が儲けて給料が上がればいいと思う！」

②ふりかえりでの発表で、意見交流の成果を実感している意見が多く出た。

Tさん「みんなそれぞれの意見があって、『あー、たしかに』『それな！』と思うことがありました。特にAさんの航空機燃料税についてですが、オリンピックの前に増税し、終わった後に少し減税することで外国人観光客の減少を防ぐ、というのはとてもいいな！と思いました。」
Mくん「自分は成長戦略や科学技術の発展を考えていたけれど、不安定になるから土台が必要だとわかった。大人の意見や他の人の意見も聞けて、自分のここはよかったけれど、ここはもう少し考えた方がいいなどがわかった。」

→対話を繰り返すことで自分の考えを振り返って深めたり広げたりすることができていた。ただ、主眼の「自分の立場を決める」というのは次時に持ち越されてしまった。

③質問に対応するために、これまでの授業で扱った資料や新聞記事を持ち出して説明していた。

特に、昨年12月の「平成30年度予算 閣議決定」の特集記事や、6月の「骨太の方針」に関する記事はよく使われていた。

(例) Sさんの場合

Sさん「防衛費が過去最大だけど、そんなにいらないから減らしていいと思うんだよね。」
Aさん「防衛費って、どのくらいだっけ？」
Sさん「えーっと、ちょっと待って。(新聞記事を確認しに行く)
ほら、これ見て。2012年からこんなに上がってる。5兆円だって！」
Aさん「でもこれを読むと、何かあったとき用みたいだから、なくすのは難しいんじゃない？せめて、もっと安いのにするとか。」
Sさん「その手があったか！」

他にも、「もらった記事で読んだんだけど…」という発言は2、3人していたらしい。

→新聞を継続的に読んでおくとじわじわ効いてくる。日欧EPAは社会の時間ではなく、休み時間に話したこと。授業に限らず、新聞に触れさせておくと話が深まるとわかった。

④新聞を使って現実の社会に触れたことで、生徒が劇的に変化した。

4月当初の3年生は社会的事象への関心が非常に低く、事件やスポーツに興味はあっても、社会的な話題をふるとうんざりした顔を返していた。この単元の冒頭、Sさんは税や財政という言葉を出しただけで眉間に皺を寄らせて「やだー」と言っていたのだが…。

Sさんの最終回の振り返りシートの記述
「改めて、税金が無い世の中だったらどうなっているのだろうと考えてみたら、日本の中はグチャグチャで、今とは比べものにならないくらい汚かったんだろうと思い、税の大切さがよくわかった。税の作文は、書く前は難しいんだろうなと思っていたけれど、書き始めるとスラスラかけて楽しかった。」

しかも、休み時間には「こういう、国のこととか話するのが楽しい♪」と話していた。授業以降、新聞コーナーで「社会保障」とか「少子高齢化」とか「財政」といった話をしていると、自然と3年生数名が寄ってくる。驚くべき変化だ。

→「知ること」が必要。現実の社会がどうなっているか知ると、自然と社会的事象に目が向く。身に迫った課題を知れば、自然と考える。それを知らせるツールとして、新聞の有用性が改めて明らかとなった。

- 2 実践授業 その2 11月・3学年社会（公民的分野）
 (1) 単元名 「私がやらなきゃ誰がやる！ 私たちのための民主政治」
 (2) 本時の位置 全10時間中の10時間目
 (3) 本時案

主 眼 民主政治における民意の大切さを自覚し、マスメディアの役割を理解した生徒たちが、現在の政治的課題について3学年の民意を形成する場面で、それぞれ異なる新聞社の社説を読み分かったことをもとに仲間と意見交換することを通して、いろいろな意見を知ることが大切だと感じ、自らさまざまな意見を得ようという意欲を持つことができる。

過程	学習活動	予想される生徒の反応	指導	評価	時	資料等
導入	学習問題：マスメディアを使って3学年の民意を形成してみよう！				5	・前回作ったボード ・個人用学習カード
	1 本時の活動内容を確認する。	・臨時国会で何を優先的に取り組むか？ ・他の新聞には何が書いてあったかな。 ・違うことが書いてあるかなあ。 ・話し合ってまとめたら最後に自分が民意を理由付きで発表するんだな。	1 何についての民意を形成するのかと、本時の活動の流れを確認させる。			
	学習課題：自分の読んだ新聞の内容を伝え合い、話し合って3学年の民意にしよう。					
展開	2 まとめたことを発表し、議論する。	△補正予算と憲法改正、外国人労働者受け入れが主要な論点だって。 ◇外国人労働者の話、こっちにもあったよ！労働力不足を補うって。 □こっちにもあったよ。安心して働くにはじっくり議論すべきって。 ・扱ってる新聞社が多いね！ ・少子高齢化からの労働者不足を補うってことは人口減少って深刻なのかな。 ・でも日本人の活躍を促すようなことを取り上げている新聞社はないよね？ ○こっち、全然違って行政監視機能の強化が最優先だって。 ・行政って、内閣か。なんで内閣監視するんだろね？ ☆財務省の文書書き換えとか？ ○森友・加計問題らしいね。 ☆こっちだと、野党頑張れってのがメインで書いてあったよ。 △こっちは、首相は憲法改正について発言を控えるべきだって。 ・え！自衛隊明記に反対なの？ ○首相が改憲の話は応じたのに、野党への答弁は適当だったって批判してる。 ・だから野党頑張れなのかなあ。 ・結局、臨時国会で優先すべきは…？ ・外国人労働者の受け入れってこと？ ・憲法改正よりはそっちかなあ。 ・でも労働者不足なら、少子化対策に力を入れるべきじゃない？ ・たしかに。じゃあ、3学年の民意は少子化対策かな。 ・労働力不足だから外国人の受け入れを拡大しようとしているけれど、そもそも人口を増やすなら少子化対策をすべきだと思うので、3学年は少子化対策を優先すべきだと考えました。	2 前回記入したボードを持ち寄せ、発表させる。それを受け、意見交換をさせる。 複数の社説を比較・関連させて、政治的課題について考えることができる。	20	・発表用の学習カード	
	3 代表者が3学年の民意を発表する。		・まとめに入っていなかったら、民意をまとめるよう声を掛ける。	10		
			3 最初に決めておいた生徒に発表してもらう。	5		
まとめ	4 マスメディアの使い方を考え、単元の振り返りをする。	・新聞を読んだらいろいろ知れたね。 ・新聞によって考えが全然違ったね。 ・いくつか読むと差に気付けるね。 ・前より考えが深まったと思う。 ・いろんな考えを知って大切だね。 ・みんなと話ができたのもよかった。 ・これからいろんな意見を見聞きして政治について考えていきたいね。	4 「マスメディアをどう使うのが大切なの？」と問いかけ、振り返りを記述させる。 いろいろな意見を得ているという意欲を持てる。	10	・振り返りシート	

(4) 実際の授業で

反省として、

- ・自分の考えを持たせてから活動に移れば、話し合い序盤の沈黙が少なかったと思う。
 - ・読み取った記事について発表したあと教師が出て相違点をまとめていたら、より論点が焦点化されてスムーズに話し合いが進んだと思う。
 - ・以前考えていた指導案の名残で同じ日の社説にしてしまったが、今回の内容であれば違う日でよかった。「野党頑張れ」といった記事は今回の論点とすれ、せっかく読んだのに活かせなかった。
 - ・せっかくまとめた「3学年の民意」について、教師の扱いが少なすぎた。
- といったことが挙げられた。とはいえ、これまでの取り組みや学習の成果も見られた。

① 既習事項や経験、記事の内容を比較・関連・統合させて主体的に民意をまとめられた。

(各紙について発表し、所信表明演説を読み返した後)

教師「いろんな意見があったけど、自分たちのにはどう？」

Sさん「自分たちが関わっているのは、**少子高齢化**。」

Mくん「**田舎の風景を残したい**よね。」

Tさん「**農家の平均年齢が66を超えた**って。」

Mくん「きつ。農作業は**(自分がやっても)**つらいのに。66歳とか、重労働すぎ。」

Nさん「『**少子高齢化に対応して、若者がチャレンジしやすい町をつくる。高齢者がネットを使って事業をするための対応をしたい。**』って。」

Sさん「なんか、あったよね？**山の中のお年寄りがなんか売るためにネットを使って**って。」

Mくん「あー、あった。去年？授業でやりましたよね。」(教師：頷く)

Iさん「少子高齢化だね。」

Mくん「少子高齢化。でも高齢化は急になくならないよね。**医学が発展**してきて。少子化が問題なんだよね。」

Nさん「**結婚する時期が遅くなっちゃう**から…。」

(生徒がそろって教師を見る)(全員で爆笑)

Nさん「結局、少子化が全部に関わってくるよね。」

Mくん「**少子高齢化が無ければ、外国人労働者問題も無い**でしょ？」

Iさん「**求人ばかりあるって。そういう時、人手不足だから人がいるんだ**よね。」

Tさん「今言ったことじゃない？」

Mくん「みんな的に、少子高齢化が一番考えた方がいいってことでしょ。」(全員頷く)

(中略)

(3学年の民意は)

臨時国会では少子高齢化対策を最優先すべきだと思います。そうすれば、**農家の平均年齢が66歳の問題や過疎化**が解消されます。また、**中小企業の労働力として人手不足が解消されれば外国人労働者をめぐる問題にとってもいい**と思います。さらに、**伝統工芸を若者に受け継ぐこと、若者がチャレンジしやすい町にすること**などが解決されます。だから少子高齢化対策を最優先にしてほしいと思います。

自分たちの実体験から・所信表明演説から・地理の授業から・公民の授業から・今回扱った新聞から・新聞タイムで読んだ記事からと、ありとあらゆる情報を比較・関連・統合させて共通点を見出し、3学年の民意にまとめ上げていくことができた。

要因は2つ。

→「3学年の民意をつくろう」という学習問題を設定したこと。

→実践授業その1や政治单元を通して、日本の危機的な状況を自覚したり、政治的課題について考えて自分の意見を持つ大切さや面白さを実感したりしていたこと。

これらの取り組みや仕掛けによって、生徒たちは問題を自分事ととらえ、もてるものをフル動員させて主体的に話し合いへ取り組むことができたと考えられる。

② いろいろな情報を得ることの大切さを実感できた。

(民意の発表後)

教師「民意を作るのには何が必要？」

Nさん「情報。」

教師「情報はどこから来た？」

Sさん「新聞。」Mくん「ネット。」

教師「そうだね、マスメディアだった。じゃ、もし所信表明演説だけだったら？」

Mくん「難しい。」

教師「新聞が一社だったら？」

Mくん「考えが偏る。」

教師「ということは、マスメディアをどう使うのが大切？」

Nさん「いろいろな新聞やネットを見るのが大切。」

少々、教師が誘導してしまったように思えるが、振り返りシートへの記述でも、多くの生徒が「複数の情報を得ることの大切さ」について書いていた。昨年度に続き、新聞を読み比べることの

効果が実証された。また、今年度は実際に民意を形成してみたこと、しかもA4で6ページにわたる所信表明演説だけ渡されても困る！参考になる情報が欲しい！という過程を経て民意を形成していったことで、いろいろな情報を得ることの大切さを生徒が身をもって体験することができた。

③主権者としての自覚を持ち、主体的に政治へ関わろうという意欲を持てた。

特に大きな変化が見られたのは「3学年の民意」を発表してくれたTさんだ。4月当初の彼女は新聞にもニュースにも全く興味が無く、むしろ教師が時事ネタを話し出そうものなら、眉間に皺を寄せてしぶしぶ聞かぬ方向を見ているかどちらかだった。

そんなTさんの、本時の振り返り。

民意を作ってみて、改めて政治の難しさと私たちとの関わりを感じました。まだ成人していないし、18歳でもないけれど、何かしら政治にはかかわっていききたい。それが、あと数年後には直接的なものになるので、しっかり国について考えられるような人になりたいです。

自分が主権者となることをしっかりと自覚し、今から備えていきたいと書いていた。

授業後、Tさんは、

「2年の頃と比べて3年生は政治について大分話せますが、新聞などを読んでいなかったらきっと何もわからなかったと思うので、今やっている授業前の新聞タイムを続けてほしいです！」

とも語っていた。こうしたTさんの記述は、行動となって表れる。

授業の数日後、ちょうどアメリカ中間選挙の後だ。Tさんは委員ではないのに、新聞コーナーに置く新聞を職員室へ取りに来た。そして柳澤と新聞を見ながらこう語っていった。

「トランプさんとCNNの記者の話、ニュースで見たんですよ。これ、トランプさんの戦略だって話を聞いて…。(中略)日本、大丈夫かなあ。」

半年前には安倍首相を「あべしゅうそう」と呼び、地デジが映らず新聞を取っていない家で過ごしていることを気にも留めていなかった彼女が、自ら情報を得ようと行動し、こんなに政治について語る人になるなんて…！！驚きを通り越して感動すら覚えた。

3 実践授業 その3 2月・3学年数学

(1) 単元名 「標本調査」

(2) 授業の概要

「否定的」「肯定的」な語を判断するとき主観に左右されるのは承知している。挑戦的取り組みとしてご容赦願う。

学習カード

学習問題) 新聞の特徴を調べるために、標本調査を行おう。

調べること：各新聞社が、内閣や首相の行い(やったこと・言動)について
肯定的に伝えようとしているか、否定的に伝えようとしているか。

調べる新聞：読売新聞、朝日新聞、信濃毎日新聞 の3社。

調べる記事：1面、投書欄の2ページ

参考)

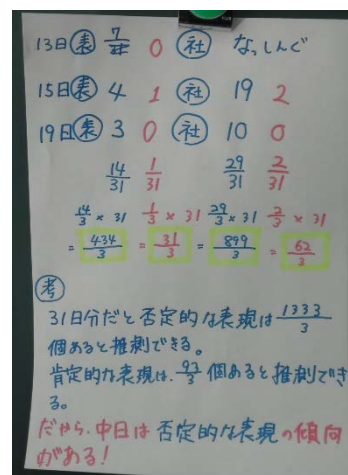
否定的な言葉の例：役割(機能)を果たしていない。 あいまいな～ ～できない(政府だ)。
(○○すべきところ)～はなかった。 ～はよくない。 政策失敗 説得力がない。
(国民の意見を)聞こうとしていない。 自画自賛 (考えが)伝わってこない。
ゆるみ おごり 不毛な(政策) 悪循環
肯定的な言葉の例：役割を果たしている。 説得力がある。 (○○な政策を)着実に実行している。
民意を反映している 得策 ～は国益となる。

【標本調査の進め方】

- ① 母集団から標本を無作為に取り出す。(今回は、エクセルを使って、3日分抽出する。)
- ② 取り出した標本の性質を調べる。(肯定的な表現○個、否定的な表現△個 あった。)
- ③ 調べた結果から、母集団の性質を推測する。
(31日分だと 肯定的な表現は○個あると推測できる。否定的な表現は△個あると推測できる。だから、○社の新聞は～な傾向がある。)

実際は投書欄ではなく1面と社説を、また、信濃毎日新聞ではなく中日新聞を使っている。

標本調査のやり方を学んだ生徒たちが、実際に標本調査を行ってみる場面。ペアで調査し、考察した。↓



写真の例の場合、無作為に抽出した新聞3日分の中で

一面における否定的な表現→14個 肯定的な表現→1個

社説における否定的な表現→29個 肯定的な表現→2個

つまり、1日当たり平均で 否定的な表現→43/3 肯定的な表現→3/3

これを一か月分(31日分)にすると、

否定的な表現→43/3 × 31 = 1333/3 肯定的な表現→3/3 × 31 = 93/3

と推測できる。

(3) 実際の授業で

結果 一か月の推計

朝日新聞→肯定：0/3	否定：930/3
読売新聞→肯定：186/3	否定：1765/3
中日新聞→肯定：93/3	否定：1333/3

結果を見た生徒たちは
「こんなに否定しているの!？」
「否定もあるけど、肯定もしている。」
「一面より社説の方が否定的だね。」
「数学って便利。」
など、感想を口々に言っていた。

この授業には柳澤がTTで入っていたこともあり、マスメディアは権力を見張る役割も持っているため、否定的な表現が多くなりがちだということ、社説は新聞社の考えが最も表れる記事だということなどを補足した。自分の好みの新聞はどれなのかを話している場面もあり、新聞に対する理解がまた深まったように見えた。

各教科でNIEをと考えてきたが、今回の授業をきっかけにNIEを軸として教科横断的に授業を行う良さを発見できた。実際の社会では社会的事象が教科ごとに区切られているなんてことは無いので、より実際の社会に近い形の授業、これから役立つという実感を持たせられる授業にするためにも、NIEという軸を多くの先生に持っていただけたらと思う。

IV これまでの実践を振り返って

2年間、長野県NIE研究指定校として多方面からご支援をいただきつつ、思いついた活動をありっただけやってみた。中にはうまくいったものも、いかなかったものもあるし、構想の段階で断念したものもたくさんある。それでも、やればやるほど生徒が変化していくのが手に取るようにわかる。それは大きな支えだった。

NIEを通して学んだことは星のごとくあるが、2つに絞ってみた。

「継続は力なり」と、

「新聞は人を変える」という2点。

生徒が新聞に興味を持つまでには、とても時間がかかった。さらに、新聞の文章を読む力をつけるのにも大変時間がかかった。昨年度、新聞タイムを始めたころは「全校を言いくるめて始めてみたものの、果たして成果は出るのだろうか…」と気が気ではなかった。悩みながらも取り組み続けた結果、昨年度のレポートでは「新聞記事の日本語が難しすぎる」と失礼なことを書いていたが、今の3年生は苦も無く新聞を読んでしまう。辞書を引くという行為も自然なものとなった。諦めなくてよかった。また、実践授業2の話し合いのように、ありっただけやってきたことは、何かしら生徒の中に蓄積され、これからの日本を語る材料となっていた。続けてきたからこそ見られた姿だったと思う。NIEの効果はさまざまな面で表れる。これを学んだ生徒が、今後の高校生活や社会生活の中で生かされていくことが多くあると考えている。焦らずに継続することの大切さを改めて実感した。

3年生は、実践授業1の通り、新聞から日本の財政状況を知り危機感を募らせた。また、2年生のつぶやきにもある通り、多くの生徒は新聞を開いたことで世界へ目が向いた。本校は山の中の小さな学校で、外部の情報はなかなか入ってこない。しかしありがたいことに、どんなに山の中でも新聞は毎日届く。そして毎日世界と根羽をつなぎ、こんなにも人を変えてくれた。つくづく実感した。新聞は偉大だ。

もともと、この研究指定校のお誘いを受けたのは、自分自身が社会科のくせに新聞を読まないという後ろめたさと、18歳選挙権に対する焦りからだった。あのころは正直、まさかこれほど大きな変化があるとは思えなかった。申し訳ない…。もっと早く取り組んでいればよかったと思う。今年度、「全教科でNIEを!」と掲げ、多くの先生に取り組んでいただいたことがせめてもの罪滅ぼしになってくれたらいいのだが…。新聞の持つ力と生徒の可能性を信じて、来年度以降、研究指定校の期間は終わっても、取り組みを継続していきたい。